

1/23 系統

敵基地攻撃能力の保有や南西諸島の軍事力強化など、岸田文雄政権が大軍拡に突き進むなか、太平洋戦争末期の沖縄戦に動員された沖縄県内全21の旧制師範学校・中等学校の元学徒でつくる「元学徒の会」が、「軍ひ沖縄を戦場にすむ」と断固反対する。

「」との声明を発表（12日）しました。同会の幹事をしていきました。その後、台湾に疎開。1945年、転入した高雄第一中学校の生徒で学徒隊が編成され、宮城さんは特設警備隊に入隊し、小隊の分隊長を務めました。

「」との声明を発表（12日）しました。同会の幹事をしていきました。その後、台湾に疎開。1945年、転入した高雄第一中学校の生徒で学徒隊が編成され、宮城さんは特設警備隊に入隊し、小隊の分隊長を務めました。

「元学徒の会」声明

発起人

平和外交が必要



宮城政三郎さん

那覇市

声明は「軍ひ戦争が迫りくる恐怖と強い危機感を覚え、むじい沖縄戦を思い出す」と記し、「日本政府がすべきことは、外交で平和を築く努力である。戦争を回避する方策をとるべきであり、いかに戦争するかの準備ではない」としています。

学徒戦没2千人

沖縄戦では、多くの学徒が学業半ばで戦場に駆り出され、若い命を失いました。金勇徒の戦没者は約2000人。生き残った元学徒は、身をもって体験した悲惨な戦争の実相を語り継ぎ、恒久和平を願ってきました。

戦争当時、沖縄県立第一中学校の生徒だった宮城さんは、小禄（おのづ）飛行場拡張工事や泊まり込みでの読谷（よみたん）飛行場建設作業などを

沖縄の心 戦場化断固反対

をしていました。その後、台湾に疎開。1945年、転入した高雄第一中学校の生徒で学徒隊が編成され、宮城さんは特設警備隊に入隊し、小隊の分隊長を務めました。

同年5月、山での作業中、爆撃を受けます。何度も爆弾が落ち、大音響と地響きが続きました。とうとう飛び込んだ穴に覆いかぶさった木の幹にピョンピョンと破片が刺さる音がしました。爆撃が終わり、つぶれた穴から飛び上がる、一面焼け野原で、あちこちに吹き飛んだ15人の学友が息絶えていました。沖縄では、鉄血勤農隊として動員された一中の同級生たちの多くが亡くなりました。

軍事力一点張り

「戦前は国家に軍事力を全て集中していた。岸田政権も同じようないくをしている」と宮城さんは、「軍事力の一点張りでとにかく攻撃、攻撃でしょう。国民の生活や犠牲は何も考えていない。これは絶対に許してはいけない」と語ります。

声明はこう訴えていました。「戦争する國は美しい大義名分を掲げるが、戦争には恵しかない。爆弾で人間の命を奪うだけである。戦争は始まってしまうたら手がつけられない。犠牲になるのは一般の人々だ。大勢の人の命が奪われ、双方の国に大きな被害を出す。戦争はしてはならない。命を何よりも大切にする」と、平和が一番大切だといふ沖縄戦の教訓を守つてもういたい」

（編次説話）